

## 海と日本プロジェクト「こども港調査隊 課外授業」が開催されました！

12月18日（火）、敦賀市立粟野南小学校の5年生99名を対象に、「こども港調査隊 課外授業」が開催されました。

本イベントは、海に親しむ授業を全国で展開する海と日本プロジェクトが、7月に福井県、8月に新潟県で行った日本海のみなと大発見こども港調査隊の取り組みをまとめたガイドブックの完成を機に企画したものです。

授業では、港が日本の玄関口となり物や人を運んでいることや、港の施設が安全で効率的な荷役を支えていることなどの港の役割を始め、敦賀港の貨物量や北海道との航路が充実していることなど、地元にある身近な港の特徴を学びました。もし港が無かったらという説明では、食べ物や服、電気など生活に欠かせない物が手に入らなくなることを知り、児童達は驚いている様子でした。

説明後には、「どの施設が一番大切なんですか」「どうして福井県にはたくさん港があるの？」など鋭い質問が多数寄せられ、港について理解を深めていました。

敦賀市では小学校4年生の社会科教科書「私たちの郷土」で敦賀港の歴史を全市的に学んでいますが、このようなイベントを機に港についてさらに理解を深め、多くの子ども達に港の役割や大切さを知ってもらいたいと思います。また、地元にある敦賀港を身近な存在として認識し、今後盛り上げてくれることを期待しています。



説明を熱心に聞き入る児童達



こども港調査隊ガイドブックの表紙



授業の様子が福井テレビで  
放送されました！



最後にみんなで写真撮影！！